

目指す学校像	学びを実感できる学校 安心で安全な学校 信頼され、地域の誇りとなる学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 個別最適な学びの実現と思考力、判断力、表現力の育成につなげるための授業改善とスキルの向上 2 安心で安全な教育の推進と配慮の必要な児童への教育支援・相談体制の充実 3 コミュニティスクールによる学校・地域・家庭との一層の連携 4 研修受講奨励を柱とした教職員研修の充実と管理職の教室訪問による授業力の向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○昨年度全国学力・学習状況調査においては、国語、算数ともに、全国平均と比べて+5Pと概ね良好な結果であり、市の学習状況調査においても国、算ともに平均に達している。 ○全国学力・学習状況調査においても市の学力調査においても自ら考え取り組んだり、自分の考えを広げたりできていたか等の設問では回答が平均して全国・県より-2～4Pであった。 ○児童の授業への参加態度はどの学年においても比較的良好で落ち着いており、真面目に取り組む児童が多い。 <課題> ○日頃の授業において既習事項をもとにした「自分の思いや考えを表現する力」が不足している傾向が見られる。 ○本校の国語科においてより効果的なICT機器の活用についての事例や共通理解を進める必要がある。	・個別最適な学びの実現に向けた授業改善  ・思考力、表現力の育成のためのICT機器の効果的な活用	①自ら考え、思考し、やってみて、クラウドを活用して伝え合う授業形態「じ・し・ゃ・く」を合言葉に授業に取組み、主に国語、算数の授業を進めるにあたって、個別最適な学びの実現にむけて取り組んでいく。  ①教育委員会による指導者を招聘し、本校の学校課題研修で取り組むべき方向性と基本的な手立てを学校全体で共有し、全職員で推進していく。 ②研修主任、エバンジェリストと定期的に連携を図りながらICT機器活用の研修会を開催する。思考力、判断力、表現力の育成のための効果的なICT機器の活用方法を試行錯誤しながら教材研究を深め、取り組んでいく。	①新たな「学びの指標」の主体的な学びの項目が8割以上、又はよい授業のアンケート「因子4」の児童の活動の項目が全学級目標値+1P以内になっているか。  ①年度末の校内研修の振り返りで、研修課題の解決に向けて取り組んだ手立てが効果的であったという評価が職員の8割に到達しているか。 ②国語科の授業を中心に、思考力、表現力育成のために、ICT機器を活用した話し合い活動、伝え合い活動が授業中に確保できているか。					
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の設問に肯定的な回答は全国・県平均とほぼ同じ割合であった。 ○枯れた樹木が数本校庭に残っている。施設・遊具で老朽化が進んでいるものが見受けられる。 <課題> ○学習活動全般において、主体的に学ぶ姿勢がどの学年の児童においてもやや不足している。学校生活の多くの場面で、主体的な活動場面を設定し、達成感を味わえるような体験を積み重ねていくことが課題である。 ○担当の教職員が施設設備の安全点検を実施するだけでなく、複数の目で確認する体制作りが課題である。	・児童一人ひとりの実態に適した教育支援・教育相談体制の充実  ・安心・安全な生活の実現のための安全点検の整備と新しい体制作り	①配慮を要する児童の個に応じた指導の実現のために、専門機関、関係機関と連携を図り、保護者との信頼関係のパイプをより強化する。 ②授業及び学校行事において伝え合う活動や学び合う活動を取り入れ、主体的、対話的で深い学びができる環境を整えていく  ①教育委員会学校施設課と連携を図りながら定期的な樹木剪定と施設整備・校庭の遊具の整備。複数の目で行う校舎内外の安全点検の体制作り。新設された放課後児童クラブとの施設使用に関する情報交換会を開催する。	①教育相談体制の充実を図るために児童理解研修を毎月1回定期的に実施し、職員の共通理解を深め、随時、ケース会議を開催することができたか。 ②教務主任、特活主任、各主任と連携を図りながら、コロナ対策の為に自粛していた児童主体の集会活動、委員会活動、各行事を活性化し、主体的に学び合える行事が昨年度より増えたか。  ①校庭の樹木剪定、老朽化した校舎内施設設備・遊具の整備が学期ごとに安全にかつ適切に実施できたか。 ②新設された放課後児童クラブとの施設使用に係る安全管理の情報交換が学期ごとに行われたか。					
3	<現状> ○地域の児童センター、福祉協議会、デイサービスセンターなど学校と地域の施設との関わりが深く協力的である。学校支援のボランティア、PTA、からの支援も得ながら学校としての協働活動が実施されている。 <課題> ○今年度は、新たな学校運営協議会のメンバーも加わり、年度末に話しあった学校支援ボランティアの推進やデイサービスセンターとの交流をメインにした豊かな心を育む活動について、見直しをもった活動プランを全体で共有する必要がある。	・地域、保護者との連携・協力による教科・行事支援ボランティア活動の拡充  ・本校施設内にあるデイサービスセンターとの定期的な交流の推進	①地域や保護者から学校支援に関わる人材を確保し、教科支援、行事支援、図書ボランティア活動等に関わる場を増やしていく。便り、HP等で取組状況を発信していき、協働体制を深めていく。  ①学校運営協議会において、学校・家庭・地域での課題について熟議し、共有する。また、連携・協働体制を整え、学校支援体制の充実、デイサービスセンターとの交流支援等につなげていく。	①学校評価のアンケートで、教育活動の公開や協力体制の項目で肯定的な意見が昨年度の85%を超えたか。  ①学校評価のアンケートで、保護者地域PTAの協力ができているの項目で肯定的な意見が9割を超えたか。					
4	<現状> ○エバンジェリストが中心となりICT機器の効果的な活用と実践事例が積み重なっており、授業や会議においても効果的に活用されている。 <課題> ○学校課題研究への取組において新しいICT機器の活用法を研究したり、教材研究を深めたりしてお互いが切磋琢磨して教師力の向上につながる環境作りが課題である。 ○新たな研修受講に向けて意識の向上と取組について学校全体で情報共有をしてことが課題である	・学校課題研究の解決に向けたICT機器活用の研究や若手教員の指導力向上研修も含めた、学び合いのできる研修体制作り	①実習生への師範授業、公開授業、年次研修授業、学校課題研修の研究授業等、年間を通して一人1回はICT機器を活用した授業研究に取り組み、お互いに授業を見合う中でそれぞれの授業力の向上を目指す。 ②学校課題研修及び指導力向上研修や校長による計画的な教室訪問の指導・助言による授業力の向上に取り組む。 ③職員それぞれが自己研修を設定し、プランニングをしていく。	①全ての研究授業で、協議会かそれに代わる機会を設定し、お互いの授業改善とICT機器の技能スキルの向上が図れたか。 ②全ての教員が自らの自己評価シートの目標達成のために取り組み、主体的で対話的な深い学びのための授業改善ができたという職員が8割を超えたか。 ③年度当初に計画した自己研修について実践し、学びを深めることができた職員が8割を超えたか。					